



萩博物館企画展

# 萩・北浦の クジラ文化

— 西日本最大捕鯨漁場の軌跡 —

平成23年  
4月23日(土)~  
6月19日(日)

 萩博物館

〒758-0057 山口県萩市大字堀内355番地 TEL 0838-25-6447  
FAX 0838-25-3142 URL <http://www.city.hagi.lg.jp/hagihaku/>

後援 下関市 下関市教育委員会 長門市 長門市教育委員会

NHK山口放送局 KRY山口放送 tjsテレビヨロ yob 山口朝日放送 萩ケーブルネットワーク株式会社

- 開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- 観覧料：大人500円 高校・大学生300円 小・中学生100円  
[団体割引20名以上20%・障がい者割引20%]
- 駐車場：有料（※萩市民は無料）  
普通車66台（1回300円） バス8台（1回1,000円）



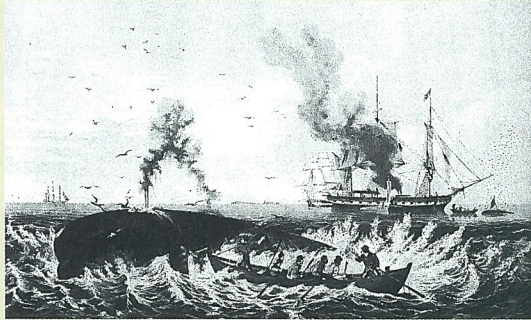
萩博物館  
企画展

# 萩・北浦のクジラ文化

## —西日本最大捕鯨漁場の軌跡—

クジラは明治維新の立役者であった！

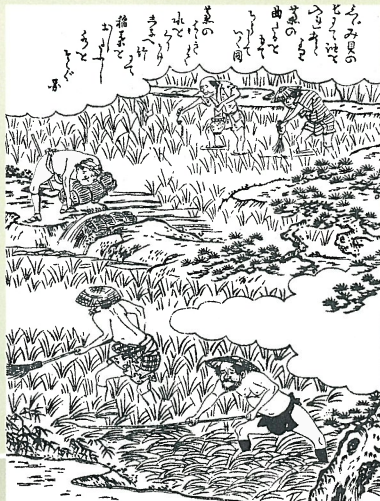
1853年、日本に開国を求めてアメリカのペリー艦隊が来航します。それは、ジャパングラウンドと呼ばれた大捕鯨漁場で、大挙操業していたアメリカ捕鯨船へ、物資を補給する港を確保することが目的の一つでした。多数のクジラが近海に生息していたことが、日本を明治維新へと導くきっかけとなりました。



アメリカ捕鯨船の操業(勇魚文庫)



萩・北浦地域の虫送り行事



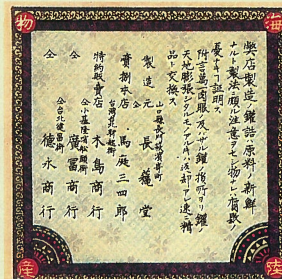
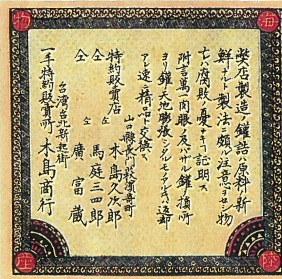
鯨油を用いた害虫駆除(「除蝗録」)

クジラに生かされてきた！

農薬が開発される以前は、虫害によって稲の栽培は大きな影響を受け、飢饉も発生していました。1950年頃まで、クジラから採った鯨油は、害虫駆除のために無くてはならないものでした。この鯨油によって米の生産が維持されたことで、萩・北浦地域の先人たちは生かされてきました。

クジラ文化が  
息づいている！

萩・北浦地域では、節分の夜をトシノヨ(歳の夜)と呼び、一年の節目の日と意識してきました。この日は、大きく歳を取るために、生命力に満ちたクジラを食べる慣わしとなっています。昔から、沿岸をたくさんのクジラが行き来し、それを利用してきた地域ならではの文化が、今に息づいています。



明治年間、萩の浜崎町で製造されていた「くじら日本煮」缶詰ラベル(勇魚文庫)

### ギャラリートーク

日時：5月7日(土)、21日(土)、6月4日(土)

いずれも午後2時から1時間

参加費：無料(ただし、観覧料は必要)

※展示を担当した職員が解説します。

企画展示室入り口にお集まりください。

### 交通アクセス

◎JR東萩駅よりタクシー10分／徒歩30分

◎JR新山口駅よりバス70分(萩バスセンター下車、徒歩20分)

◎萩・石見空港よりバス75分(萩バスセンター下車、徒歩20分)

◎萩バスセンターより「まあーるバス」西回り10分「萩博物館前」下車すぐ

◎中国自動車道山口IC60分、

美祿東JCT・秋吉台ICより45分

◎山陽自動車道防府東ICより70分



次回  
特別展

伝説のクジラキングを追い！  
—ピノキオのクジラ探訪記—  
日時：7月2日(土)～9月4日(日)